

第3章 どのような環境を目指すのか

1. 中津川市が目指す環境像

当初の環境基本計画では、「自然は子孫からの預かりもの」という認識を持ち、豊かな自然を大切にしながら、将来にわたって安心して住み続けることのできる、やすらぎに満ちたまちづくりを進めていくうえで、「自然があふれる緑と文化のまち中津川」を当市が目指す望ましい環境像としてきました。

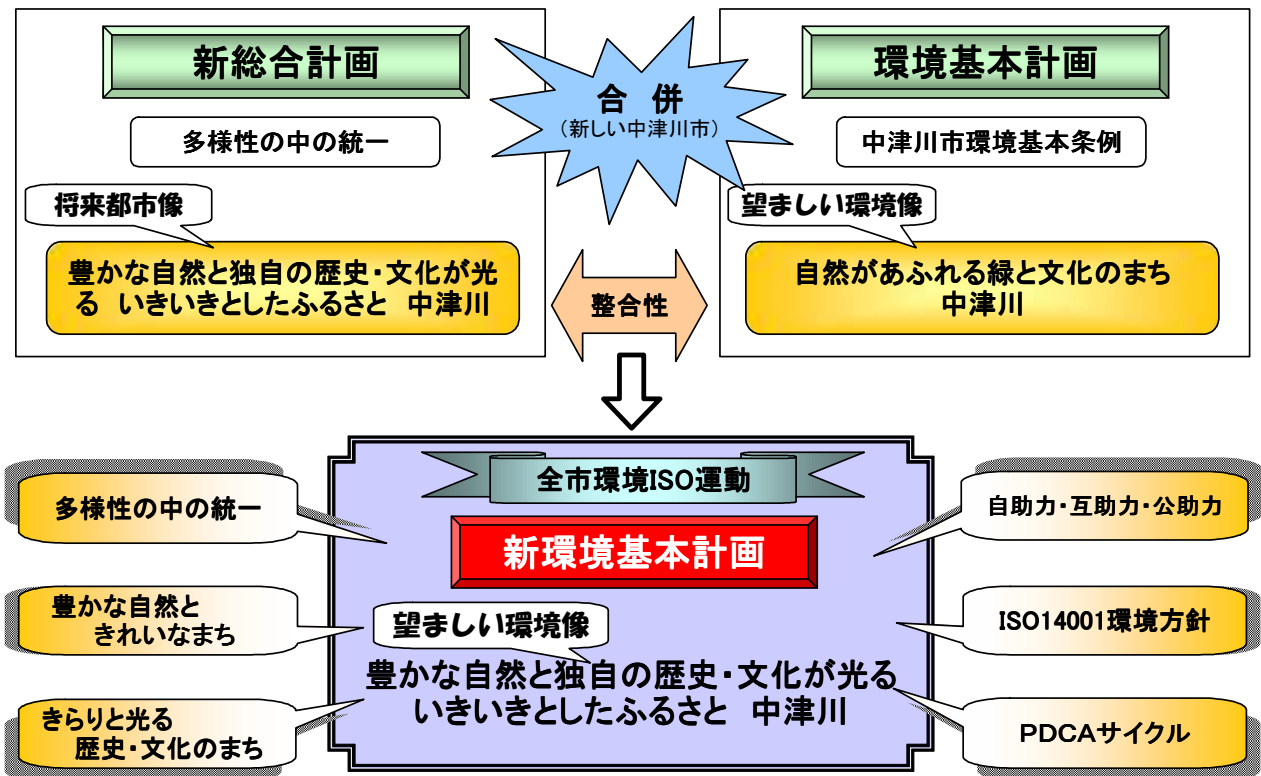
平成17年3月の合併に伴い、「多様性の中の統一」を合併の理念とし、各地域が持つ独自の歴史と文化、自然環境を尊重し、それぞれの地域の個性を生かしながら、市としては一体感のある街づくりを進めていくことが求められ、

“豊かな自然と独自の歴史・文化が光る、いきいきとしたふるさと中津川”

が、「新総合計画」における「将来都市像」として掲げられました。この将来都市像は、当初の「将来望ましい環境像」に重なり、合わせて地域の個性を生かす「独自の歴史・文化」も網羅していることから、この将来都市像をそのまま「新環境基本計画」の「将来望ましい環境像」として掲げます。

私たちは、環境に負担をかけることが少ない生活を営んでいた先人の知恵に学びながら、緑豊かな自然を守り育て、ふるさとの未来に豊かな環境を創り上げていくために、たゆまぬ努力を重ねていかなければなりません。

そうした努力があってはいじめて、私たち人間はもとより、生態系すべての生き物が、健やかに暮らすことのできる環境がもたらされ、将来の世代に確かな明日を約束することができるのです。



2. 基本理念

貴重な財産である豊かな自然環境のなかで、市民が安心して生活し、孫子の代まで良好な姿のまま引き継いでいくため、市民、事業所、地域、市役所がそれぞれの役割に応じた主体的な取り組みを進め、豊かな自然ときれいな中津川を実現していく必要があります。

当計画では、それを実現するために、環境基本条例の基本的な考え方に基づき、計画達成期間である10年後の中津川市のまちづくりの姿を、次の4つの基本理念として掲げます。

(1) 将来に引き継ぐ豊かな暮らし（資源の循環機能が定着しているまち）

～中津川をこんなまちにしたい～

キラキラと輝く小川には水草に隠れるメダカたちが憩い、美しい清流が流れています。

まちには、思わずおいしいと深呼吸したくなる空気、夜空に輝く多くの星々や月明かりの中で、生き物たちの息づかいが心地よく聞こえます。

市民の生活様式も変わり、日常生活で出されるごみも少なくなり、出されたごみもできるだけリサイクルされています。

買い物や、物の使用にあたっては、市民自らすすんで「ごみをつくらない、出さない」努力をしています。また、マナーが向上し、ポイ捨てや不法投棄がなくなりました。

一方、エネルギーを大切にした自動車の利用やクリーンエネルギー自動車の導入が進んでいます。

家庭においては、省資源や、省エネルギーに積極的に取り組み、エコライフを進めています。

～こんなまちにするために～

「人間の活動と環境の調和・共存」のための「持続可能」な社会の実現が求められており、省資源・省エネルギーを目指したライフスタイルへの変更や、自然環境の保全など、多くの課題に取り組んでいく必要があります。

また、市民一人ひとりが共通の認識を持ち、生産・流通・消費・廃棄など全ての過程で、市民、事業所、地域、学校、市役所がそれぞれの責任と役割を担い、身近なところから省資源、省エネルギーの取り組みを進めていく必要があります。

(2) 自然と人との共生（安らぎの自然と人が共生できているまち）

～中津川をこんなまちにしたい～

まちは、あふれる緑が美しく、そよ風が心地よい気持ちにさせてくれます。

田んぼでは、農家の人たちが忙しそうに働いています。田植えをしている人を見ていたら、カエルがピョンピョンと跳んできました。雑木林を歩いていると鳥のさえずりが聞こえ、道端にはいろいろな草花が咲いています。

みんなが自然を大切にする気持ちを持ち続け、身近な山林や緑地を守り育てています。

市内では、歴史文化遺産とのふれあいを大切にするため、まちなみの整備など、歴史を感じながら散策が楽しめるまちづくりが始まっています。また、地域の自然や歴史、それと調和した生活、空間など、地域独特の雰囲気や息づかいが感じられます。

地域の環境の現状はどうか、昔はどうだったのかなど、環境マップづくりに取り組むグループが増え、地域の環境問題について多くの市民が関心を持っています。

～こんなまちにするため～

下水道の整備などによる水質保全、自然共生型の河川整備や里山保全など、自然をできるだけ元の姿に近い形に保っていく取組みとともに、まち並み景観の保全などによりそれぞれの地域らしきを守り、うるおいのある生活空間として確保していくことが必要です。

(3) 環境づくり、まちづくり、一番大事な人づくり

(環境を大切に作る人づくりをするまち)

～中津川をこんなまちにしたい～

学校や地域、職場などで環境に関する教育や学習が盛んに進められており、環境保全の大切さを市民一人ひとりが考え、行動しながら生活しています。いろいろなメニューで体験学習などが繰り広げられ、活動に参加した人たちが指導者として活躍できるようになってきました。

みんなが環境活動にかかわり、地域の環境がどうすれば良くなるかを考え、積極的に行動しています。

市内では、市民団体が協力しあい、環境に関するイベントなどが開催され、交流の輪も広がっています。

一方、環境に関する年次報告書をはじめ、各種の調査結果などが閲覧できる場所も増え、さらに、インターネットなどで情報を入手できるような仕組みも構築されています。

～こんなまちにするため～

環境づくり、まちづくり、そして人づくりを推進するためには、たくましく生きる人づくり《自助力》、互いに助け合うコミュニティづくり《互助力》、市民が主役の市役所作り《公助力》をすすめます。

特に自助力を高めるためには、次代を担う子どもたちの生きる力を育てることが必要です。

(4) 私の一步が地球を救う (地球を大切に作るまち)

～中津川をこんなまちにしたい～

みんなが地球環境問題に対する認識を深め、日常生活の中でできることを考え、実践しています。事業活動においても地球環境に配慮した取組みが定着しています。

市民の間では、環境家計簿に取り組み、二酸化炭素の排出を少なくするなど、地域から地球温暖化の防止に努めています。

市内では、地球環境問題に関するフォーラムやイベントなどが開催され、多くの市民が参加・協力しています。

～こんなまちにするため～

地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、熱帯林の減少などの地球環境問題は、私たち人間のみならず、生き物の生存の基盤を脅かす現象になっています。その解決には、私たちのライフスタイルや事業活動のスタイルの転換がどうしても必要です。

そのため、私たちは、地球環境に配慮した取組みの必要性を認識し、地球レベルでの視野を持ちつつ、市民、事業者、市の三者それぞれが「自然は子孫からの預かりもの」という認識に立ち、考え、行動するような取組みを進めていきます。